

令和元年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

- 1 会議の名称 令和元年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和元年7月5日(金) 午後2時～午後4時55分
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎 4階 中会議室1
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
入江貴裕, 海老原健, 飯村健一(代理), 齊藤恵, 佐川泰弘, 笹尾光, 佐藤昭雄,
高倉富士男, 田山知賀子, 任田正史, 根矢和弘, 野口順市, 早川裕之, 舟橋浩文,
保立武憲, 三上靖彦, 森正慶
 - (2) 執行機関
武田秀, 長谷川昌人, 上原純大, 飛田尚亨, 鈴木貴浩, 酒井隆行, 木村昌嗣, 吉川彩美
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 平成30年度事業の評価(案)について(公開)
 - ① 国による地方創生関連事業(地方創生推進交付金事業, 地方創生応援税制認定事業)
 - ② 総合戦略に位置付けた事業
 - (2) 総合戦略(第2次)策定基本方針について(公開)
- 6 非公開の理由 適用なし
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 0人
- 8 会議資料の名称
 - 資料1-① 「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の事業評価手法について
 - 資料1-② 水戸市が活用している地方創生関連交付金・税制の概要について
 - 資料1-③ 平成30年度地方創生推進交付金事業評価書(案)
(まちなかブランディング「粋な水戸っぽまちづくり」プロジェクト)
 - 資料1-④ 平成30年度地方創生推進交付金事業評価書(案)
(地方創生人材還流・定着支援事業)
 - 資料1-⑤ 平成30年度地方創生応援税制認定事業評価書(案)
(伝承の味「水戸のわら納豆」を未来へつなぐプロジェクト)
 - 資料1-⑥ 平成30年度地方創生応援税制認定事業評価書(案)

(まちなか芝生広場プロジェクト)

資料1-⑦ 平成30年度「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」事業評価等(案)

資料1-⑧ 「水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」平成30年度実施事業評価一覧(案)

資料2 水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2次)策定基本方針

参考資料 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿

9 発言の内容

【執行機関】 定刻になりましたので、ただいまから、令和元年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。

本日は、御多用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

議事に入ります前に、皆様には、本日から2年間、本有識者会議の委員を依頼させていただきましたが、委員に変更がございましたので、事務局より参考資料に基づき、新任委員の御紹介をさせていただきます。

(新任委員の紹介)

それでは、座長に議事の進行をお願いいたします。

座長よろしくをお願いいたします。

【座長】 皆さん、本日はよろしくをお願いいたします。引き続き座長を務めさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員、___委員が所用のため、欠席との連絡を受けておりますので、御報告申し上げます。

また、本日の会議録署名人につきましては、___委員、___委員をお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

まず、(1)平成30年度事業のうち、国による地方創生関連事業の評価につきまして、事務局から説明願います。

(会議資料①から⑥に基づき説明)

【座長】 ありがとうございます。

事務局から、事業の評価手法と併せ、国の地方創生推進交付金事業、応援税制認定事業を活用している事業の評価について説明をいただきました。資料①の評価手法について、国による地方創生関連事業は国の基準に基づく評価手法とし、総合戦略に位置付けた事業の評価は昨年度と同様の評価手法としておりますので、よろしくお願います。

それでは、議事(1)①国による地方創生関連事業(地方創生推進交付金事業、地方創生応援税制認定事業)の評価に入りたいと思います。

御質問等のうち、総括的な事項については事務局から、実施した事業の内容など、個別の

事業については各担当課から回答いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、各担当課より回答いただく際には、課名をお願いいたします。

それでは資料1-③から資料1-⑥について、御質問、御意見等があれば挙手をお願いします。

____委員，どうぞ。

【____委員】目標を達成できなかった項目について、その要因を分析することが大事だと思います。資料1-③裏面の新規開業者数について、目標値の28人に対して、実績値がなぜ9人だったのか、今後どのように改善すれば目標値に近づくのか、どのように分析しているのかお答えいただければと思います。

【執行機関】新規開業者数の目標が達成できていないということでごさいます。まず、目標値の28人は3年間の累計になりまして、ビジネスプランコンテストを年に2回開催することを想定しており、1回当たり6人から8人程度採択され、そのかたが創業されるとして設定をいたしました。それに対して実績値は、平成29年度は採択プランが1件、新規開業者が5人、平成30年度は採択プランが3件、新規開業者が4人で、合計9人となっております。

目標を達成できなかったことに関しましては、コンテストが年に1回の開催のため、プランの提案者がなかなか集まらないことが一つの要因ではないかと推測しております。また、採択プランを事業化するに当たり、不動産関係など、開業に至るまでスムーズにいかなかったことも要因の一つと考えられます。

【____委員】目標値が過大だったということでしょうか。

【執行機関】ビジネスコンテストの開催回数も、創業に結び付けられる人数も、目標値を高く設定してしまったことが考えられます。

【____委員】了解いたしました。

【____委員】このプロジェクトを担当しております、まちみとラボを運営しております____でございます。実際にこの事業を始めて、全体として水戸のまちなかの空き店舗率は改善されています。当初この事業を始めたときは、新たに店舗が開店しても、それ以上に閉店してしまう店舗がある状態だったので、正味マイナスでした。ところが昨年、空き店舗率が減少に転じています。それは、私たちの活動と、グロービスの堀義人氏の水戸ど真ん中再生プロジェクトの活動をNHKが追いかけてくれておりまして、他のまちに比べて水戸のまちなかを頻繁にNHKで見かけるものですから、安心感が生まれ、出店しやすい環境に変わってきているような印象があります。

ただ、それにしても、3年間でさまざまな事業を展開してみて、ようやく感覚的に分かってきた感じで、下ごしらえができた状態でごさいます。まさにC評価というところで、これから更に具体的に励んでいきたいと思っております。

【座長】今お話があった空き店舗対策については、総合戦略の事業にも出てきますので、こちらで御意見をいただければと思います。

【____委員】資料1-④2ページ、KPIの実績について、県外大学等卒業生の県内企業等への就職内定者は、平成27年度に81人のところ、平成30年度は90人、それから県内大学卒業生の県内企業等への就職割合は、38.8パーセントから少し減って38.5パーセントとなって

います。今年度努力をされて、情報発信をしているということで、人手不足と言われる時代なので、どうしても外に出てしまう可能性もあるかと思いますが、実際にこの数値をどのように考え、今後どのような努力をされていくのかお聞かせ願えればと思います。

【執行機関】まず、この事業は県と連携している事業で、県と同様のK P Iを設定しており、実績値につきましても県と同様の数値を用いていることを御理解いただければと思います。

昨年度の有識者会議におきまして、県全体ではなく本市の実績で評価することについて御意見をいただいたところです。それにつきましては、昨年度、水戸市企業ガイドブックを作成しまして、掲載企業に対してアンケート調査を行ったところ、ガイドブック作成の前後で、新規採用者数が平成 29 年度の 329 人から昨年度は 438 人となり、109 人増加したという成果を得たものでございます。

【____委員】今のお話の中でも、企業努力ということは確かにそのとおりだと思います。企業が努力するということは大前提でありますので、企業の力の入れ方によっては就職者数の差があると思います。県全体でよいのですが、男女の比率はわかりますか。

【執行機関】申し訳ございませんが、データを取っていないのでわかりません。

【____委員】もし細かく分析しているのであれば、男性と女性それぞれの人数を明確にした上で、男性が少ないのであれば、男女が同じくらい就職してもらいたいものですから、企業に確認することが必要かと思います。

【____委員】資料 1 -④について、K P I のうち、県内大学卒業者の県内企業等への就職割合は、平成 30 年度の実績値が基準値よりも下がっている、水戸市のアンケートでは新規採用者数が増加しているということになりますけれども、県全体では流出の傾向がみられるのかなと思います。今年度、46 パーセントという高い目標を掲げていますが、相当努力をしないと達成できないのかなと思います。そのためには、人に対する、あるいは企業に対するいろいろなアプローチが必要になってくると思います。産業活性化コーディネーターを活用して企業支援を行っているということですが、U I J ターンにしっかりと結びついているのか、そちらについてはいかがでしょうか。

【執行機関】これまでは、県と連携して事業を行ってきた部分が多かったのですが、今年度は新たに、首都圏の大学生を対象に、ガイドブック掲載企業を見学するバスツアーを予定しております。また、茨城県立産業技術短期大学の学生を対象に、ガイドブック掲載企業の説明会を新たに開催する予定となっております。

【____委員】とても高い目標を掲げておりますので、そのような事業も行いながら、新たな取組も含めてしっかりとやっていかないと、人材流出を止められない可能性もありますので、雇用をつくる、人を呼び戻す、そういった具体的な取組を更に進めていただきたいと思います。

【執行機関】ただいま____委員、____委員から、本市の人口減少、就労者の減少を懸念されまして、更なる雇用の創出を図っていくべきであるという応援のメッセージと捉えさせていただきたいと存じます。

この事業を開始しまして 3 年目になります。各企業を個別に訪問しまして、企業や事業所ごとに、課題を聞き取りながら訪問させていただいております。課題や問題点はさまざまではありますが、販路拡大につながる事業を行う場合にはこのようにしたらよいのではないかと

もっとインターンシップを受け入れるにはこのようにしたらよいのではないかと、また、国の支援を受けるためにはこういった努力をされるとよいのではないかと、個別のニーズに合わせた対応を図っております。既に600社程度の訪問をしております。国の創業ものづくり補助金の採択につながるような支援を続けております。このような企業の支援を充実させながら、流出防止に積極的に努めてまいりたいと存じますので、引き続きの御助言をよろしくお願いいたします。

【___委員】資料1-③について、ブランディングというのは、まちなかのどこかにいくつか拠点を設けて、そこを中心にブランディングしていくのか、あるいは、たまたま空き店舗があるところを活用していくのか、どちらですか。

【執行機関】リノベーションに関しましては、計画の1年目に市内の遊休不動産を調査し、データを基に、さきほどのビジネスコンテストを開催させていただきまして、マッチングという形で行っています。また、平成30年度に整備させていただいたM-WORKという施設の地下階に、インキュベーションスペースがございまして、南町の銀杏坂通りに設置しております。

【座長】さきほどの資料1-④の関連ですけれども、大学の観点から一言申し上げたいのですが、おそらく去年までも同じようなことを申し上げてきたかと思っておりますけれども、UIJターンや県内大学生の就職先ということで申し上げますと、ターゲットをどこに求めるのかというのが一つポイントだと思っております。就職する本人、学生というのが一つですけれども、何年生にいつどういった形でアプローチするのかということところです。実際にインターンシップは2年生から3年生にかけて行っているわけですけれども、どのような形で大学とコンタクトを取っているのか、質問というか意見です。もう一度確認していただき、方針を考えられたほうがいいのかと思います。就職活動がどんどん早まっておりますので、例えば3年生の後半に水戸へ戻ってくるように宣伝しても遅いです。やるのであれば、3年生になる前の春休みまでにアプローチをしなければいけないというのが一つです。

それともう一つは、学生本人だけではなく、実家の親です。就職先を決定するに当たって、親の影響力はとても強いと私どもは思っております。水戸にいる親御さん向けに、水戸にはこのような企業があるといったPRに力を入れたほうがよいと思っております。

リソースの問題もあって難しいところもあると思っておりますけれども、そのあたりもターゲットに入れていただければと思います。意見ですので返答は結構です。

資料1-⑤、⑥の企業版ふるさと納税についてもいかかでしょうか。

【___委員】資料1-⑤の水戸のわら納豆ですけれども、実績が非常にすばらしく、目標を達成できて嬉しいです、努力をされた結果だと思います。今後も続けていくために、このままで大丈夫なのだろうかということと、水戸は納豆というイメージがありますが、ただ納豆を食べる他に、納豆の新しい食べ方、新メニューの募集など、納豆コンテストは存じ上げているのですけれども、実生活の中で何か新しい発想はお持ちなのでしょうか。

【執行機関】わら納豆の今後の取組につきまして、この事業は、納豆のメーカーさんと協議をしまして、この農福連携による取組で16万食を供給しようという最終的なゴールを設けております。現在の供給量が約90万食ということで、それにこの取組による16万食を上乗せして、

106万食を当面の間のゴールにしようという計画でございます。この間、既存の90万食について、わら苳の供給量が減少した場合は、追加の措置が必要と考えております。このおおむね100万食につきましては、わら納豆のこれまでの販売実績等を踏まえまして、業者さんと相談の上、設定して推進しているところでございます。

【執行機関】納豆の新しいメニューでございますが、昨年度、商工会議所において納豆料理の募集を行いまして、今年度も引き続き、調理法をチャーハンに絞って募集するという仕掛けを行っております。

また、納豆のPRといたしましては、明日、内原イオンにおいて納豆まつりを開催しまして、納豆を購入されたお客様に対して納豆をプレゼントする他、7月10日に水戸駅で納豆を配るというキャンペーンを行います。7月10日は納豆の日となっておりますので、それに向けて仕掛けをして、水戸の納豆をPRする事業を行っております。

【___委員】水戸と言えば黄門様か納豆かというほど納豆が根付いているもので、わら納豆の存在はよいことだと思いますけれども、現実的に、わらではなく普通の納豆の消費量が全国1位を取れないという現状が続いておりますので、消費量が多くなればよいのではないかと思います。

【執行機関】納豆の消費量につきまして、家庭での納豆の購入額は上位に入っておりますが、消費量はなかなか全国1位を取れない状況でございます。そういった中、全国1位を奪還すべくさまざまな仕掛けを行っており、7月10日の納豆の日に向けたイベントも仕掛けの一つでございます。納豆の消費量の1位を取ることも当然大事なことでございますが、水戸の納豆を、水戸を代表するブランド品としてPRしていくことがより大切なことだと思っておりますので、そういった活動をしていく中で、結果として1位を取れることがよいと考えております。

【___委員】資料1-⑥の中心市街地の歩行者通行量につきまして、前年度から減少したということですが、水戸駅北口周辺や京成百貨店周辺においては増加しているとなると、前年度から大きく減少しているところもあるのではないかと思います。それはどのあたりで、減少の原因は何かということと、また、水戸駅北口周辺は昨年、丸井が閉店となり、閉店の前後で通行量に差があるのではないかと思います。調査日は閉店の前か後か、そちらも確認したくお願いします。

【執行機関】歩行者通行量につきましては、毎年7月第1日曜日、月曜日に歩行者通行量調査を行っております。今年度は明後日を予定しております。国道50号を中心に中心市街地の12地点を朝10時から夜の7時まで測定しております。評価に記載のとおり、京成百貨店など増加している地点もありますが、減少した地点もございます。理由はさまざまあると思いますが、そのうち、水戸駅南口の地点で減少の幅がありまして、昨年は水戸OPAのオープンから2年目を迎えて、ある程度客足が落ち着いたことが減少の一つの要因かと考えております。調査日につきましては、丸井は昨年9月に閉店となりましたので、調査日は閉店の前となっております。

【___委員】近々調査するというのであれば、丸井の閉店前後の比較ができると思います。この1年、水戸駅北口のペDESTリアンデッキが工事などで通行しにくい状況が続いておりますので、そのあたりも今年の調査結果に影響が出てくるかと思ひます。

【___委員】資料1-⑥につきまして、中心市街地の歩行者通行量は減少しているものの、評価においては回遊性の向上に効果があったと記載がありますけれども、イベントを11回開催されて、そのイベントに合わせて南町商店街と連携したイベントがあったのかどうか、また、今後、回遊性の向上を図るためにどのような取組を行っていくのかお聞かせ願ひえればと思ひます。

【執行機関】イベントにつきましては、昨年度11回開催され、そのうち、まちなかフェスティバルや黄門まつりについては、商工会議所や青年会議所と連携しております。その他、地元のかたやM-SPOを管理している茨城ロボツツと連携して、地域貢献活動を行っております。

今後、どのように回遊性を高めていくかにつきましては、広場の利用者数の増加に向けてさまざまな広報を行っております。今後、芸術館や新市民会館など、拠点と拠点をつないだ回遊性の向上について検討してまいりたいと思ひております。

【座長】よろしいでしょうか。さまざまな御意見をいただきましたけれども、本日いただいた御意見等については、今後、事務局において整理し、最終的な決定機関であります水戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会議に提出してまいりたいと存じますので、よろしく願ひいたします。

それでは、続きまして総合戦略に位置付けた事業の評価でございます。資料⑦、⑧について、はじめに評価の概要等について事務局から説明をいただき、その後資料⑦の4つの基本目標ごとに区切りながら議論を進めてまいりたいと思ひております。

それでは、はじめに総合戦略における事業の評価について、事務局から説明をお願いいたします。

(会議資料1-⑦、⑧に基づき説明)

【座長】ただいま事務局から、総合戦略の概要説明と事業評価の総括的な説明がありました。資料1-⑧については、資料1-⑦のベースとなる資料でございますので、参考資料として御覧いただきながら、資料1-⑦をもとに議事を進めさせていただき、説明を得た上で御意見、御質問等をいただきたいと思いますと思ひます。

まず、資料1-⑦の基本目標I「生き生きと働けるしごとを創る」について、事務局から説明願ひます。

(2～5ページ 基本目標Iの説明)

【座長】それでは、基本目標Iについて、御質問、御意見等はありませんでしょうか。

【___委員】具体的施策(2)「観光産業の振興、観光消費の拡大」でございますけれども、観光というのは他の自治体との差別化を打ち出していくものだと思ひておりますが、KPIの

市内外国人宿泊者数は全国どこの自治体でも共通する項目なので、個性を打ち出しているとは言えないと思います。また、梅まつり入込観光客数は季節的なものでして、水戸市の観光施策のKPIとしてあまりに一時的に過ぎないという気がします。

私は昨日水戸市に泊まって、水戸市に住んだことのない外部の者として水戸市を見てきましたけれども、大工町や南町を歩いてみたところ、日本舞踊の練習場や、老舗の和菓子屋、城下町と関係があるかと思えますけれども、お茶屋さんの他、個性的で雰囲気のある喫茶店やバーなども多かったと思います。また、工芸品や金物屋さんが歴史的な遺産としてありますので、このようなものを見て回ることが観光地のこれからあるべき姿ではないかと思えます。そういう意味では、徳川の歴史があるまちだからこのようなものがあるわけであって、KPIも、まちなかを歩いている人の外国人の割合や、そういったかたがどのようなことを考えているのかアンケートして聴取することがよいのではないかと思いました。

【執行機関】KPIにつきましては、計画の最終年度ということもございまして、今年度についてもこの事業で進めさせていただきたいと考えておりまして、この後に出てきますけれども、第2次の計画で基本目標を定めていく中で、どのような指標が適切か、今後の有識者会議において御意見をいただきながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

【___委員】観光の部分に関連して、具体的施策（2）「観光産業の振興、観光消費の拡大」とありますけれども、指標として事務的な印象がありますので、できれば消費額の拡大に関する取組を行っていただきたいと思っております。特に、梅まつりの入込観光客数について、偕楽園の入園料有料化の話がある中で、結局消費額がどれくらい増えたのか把握する必要があるかと思えます。また、外国人宿泊者数について、目標を大きく達成しておりますが、消費額で見るとまた違った数字が出てくるのではないかと思えますので、そのあたりについて今後の課題だと思えます。消費額についてデータがあれば教えていただきたいと思えます。

【座長】現況についてのデータがあれば御紹介いただけますか。なければ、今後そのような視点も取り入れるようにとの意見かと思えます。

【執行機関】まず、消費額についてのデータは手元にないのですが、水戸で消費していただく取組として、観光客に長く滞在していただく夜型のイベントを開催する仕掛けが重要だと考えております。梅まつりにおきましても、夜型のイベントとして夜梅祭を開催しているほか、水戸ならではの体験として、水戸の伝統工芸品である水府提灯を持って散策をしていただくイベントを行ったところがございます。夜に来ていただくことで滞在時間を延ばし、宿泊をしていただき、観光地での消費額が多くなる仕掛けが大事だと考えております。

【座長】今後の会議において、これまでの状況についてお出しいただければと思います。他の委員の皆様いかがでしょうか。

【___委員】今回、市内外国人宿泊者数が素晴らしい成果であって、全国的にインバウンド観光に力を入れておりまして、茨城空港やひたちなか海浜公園に増加させる要因があろうかと思えますが、宿泊する外国人はどこのかたが多いのでしょうか。また、宿泊者を受け入れるホテルなどの充足は大丈夫なのでしょうか。

【執行機関】外国人の観光客につきましては、台湾、中国といった近隣の国のかたが多い状況となっております。このようなかたがたの受入体制の充実につきましては、W i - F i 利用環境の整備や、案内看板・観光パンフレットの多言語化を進めている状況でございます。

【座 長】今後、宿泊者数が増えていくとして、更にどれくらい受け入れられる見込みがあるのかということも御質問の内容だと思えますけれども、どなたか分かるかたいらっしゃいますか。現在建設中のホテルもあると思えますけれども。今日は分かりませんか。時期を追うごとに状況も変わってくると思えますので、行政として数字を把握しておられるのであれば、今後、この会議に提示していただければと思えます。他にいかがでしょうか。

続きまして、基本目標Ⅱ「新たなひとの流れを生み出す」につきまして、事務局から説明願います。

(6～9ページ 基本目標Ⅱの説明)

【座 長】基本目標Ⅱについて、御質問、御意見等がありますでしょうか。

【___委員】具体的施策(1)「水戸への移住・定住の推進」についてですが、K P Iとして、中心市街地の居住人口、また、まちなか住替え支援事業利用件数ということで、中心市街地に重点を置いているように見受けられたのですが、この総合戦略では、水戸市全体の人口をどのように維持し、また、流出を食い止めていくのが要になっていると思えます。ですので、中心市街地の居住人口だけをK P Iとして判断していくと、水戸市全体の人口の流れに対する評価をしにくいのかなと思えますが、そのあたりの考え方をどのように整理されているのでしょうか。

【執行機関】全体として、水戸市の中心的な取組の一つとして、中心市街地の活性化を位置付けておりまして、そのような観点から、まずはまちなかに住んでいただくという施策を掲げさせていただきました。___委員がおっしゃいますように、水戸市全体で人口減少を食い止める、人を流出させないという考えのもとに、他の基本目標も掲げて施策に取り組んでいく中で、全体的に人口減少に歯止めをかけていくという考えを持ちながら施策を進めていくということで御理解を願いたいと思えます。

【___委員】ぜひそういった視点を持っていただきたいと思えます。もちろん、中心市街地の空洞化もですが、それ以外でも、例えば住宅、団地の空洞化や、空き家が増えているところもあります。中心市街地を考えながら、水戸市全体の人口について、移住・定住をどのように推進していくかという観点と、それに対する具体的な目標を持つことが必要なのではないかと考えております。

【座 長】第1次総合戦略ではこのK P Iを設定したということですが、最後にリーディングプログラムがありますが、全体として人口は維持されている、極端な減り方はしていないという現状はありつつも、どこの地区で増えているのか、減っているのかということも見据えながら第2次の総合戦略をつくっていく必要があると思えますので、今後、例えば学区ごとのデータを提示いただき、検討をさせていただければと思えます。他にいかがでしょうか。

【___委員】水戸ど真ん中再生プロジェクトの効果が出ているのか、久しぶりに水戸に来てみると、中心市街地がけっこう活性化しているのではないかと思います。居住人口の増加には時間がかかる気もしまして、今後に期待したいと思います。日本全体の人口が減っていく中で、全地域に等しく予算配分ができないので、例えば、富山市で取り組んでいるような、市の中心部に集中都市を指定して、そこで増えた税収を周辺部に還流していくような形もあるのではないかと思います、中心市街地の居住人口の増加は重要な視点だと思っているところでございます。

【座長】昨年度の有識者会議でも、まちなか住替え支援を受けられるエリアが狭いのではないかという意見が出ましたけれども、その点につきましては昨年度又は今年度、見直された、又は見直される予定はあるのでしょうか。

【執行機関】エリアが狭いのではないかという御指摘をいただきまして、エリアの見直しということで、範囲を拡大していきたいと考えております。

【座長】他の委員の皆様いかがでしょうか。

【___委員】7ページにコンベンションの誘致・支援件数がございしますが、先ほど、イベントを開催したときのまちなかの回遊性の御質問がございました。私たちも、M-SPOの自由広場でイベントを行うと、何千人と集めることはできるのですが、それによって、まちなかから人がいなくなるということが実際に起こります。まちなかを回遊させるために、商店街と連携する仕組みが大事だと思っていますけれども、地元の商店街レベルでは、全国から人が集まるようなイベントがあることをあまり分かっていません。今日はホテルや駐車場が満杯だね、でも自分のお店には来ていない、という感じです。自分の努力もありますが、政策的、広報的なひと押しをしていただくと、成果につながるのではないかと感じました。

【座長】さまざまなイベントが開催されるときに、業界のかたがたに情報が伝わっていればうまく回るのではないかという御意見ですね。行政から、あるいは委員の皆様に関連されるかたからお考えはありますか。

【___委員】コンベンション誘致の回数は増えていまして、全国から来ていただいている実績はありますけれども、イベント会場やホテルといった狭いエリアで終結しがちになります。主催者に飲みに行ってくださいねとPRしているのですが、目的の事業が完結すればそれで終わりということもありますので、まちなかに回遊していただくために、今後PRは増やしていきたいと思っています。今月、ゴルフの全国大会が開催される予定で、まちなかに飲みにも繰り出すというようなこともあると思います。ただ、商店街とコンベンションの関係のかたたちが一致する目的があるかという、必ずしもうまくいかないものですから、できるだけPRは進めてまいりたいと思っています。

【___委員】9ページの森林公園来園者数につきまして、おそらく他のイベントは県外や海外向けにPRしていると思いますけれども、森林公園は、市内向けか、県内向けか、県外に向けてイベントを行うのか、どのように周知されているのでしょうか。

森林公園は、地元のかたが子どもたちを連れて遊んだり運動したりするのに非常によい場であると思っています、市内の人、県内の人をうまく呼び込めば来園者数は増えるのではないかと考えているのですが、ターゲットを誰に絞るのかと思い、聞かせていただきました。

いろいろなものを設置して新たに作っていただくこともよいと思いますけれども、PRが伴っているのかということが気になりました。

【座長】森林公園限定ですか。

【___委員】七ツ洞公園もです。

【執行機関】森林公園につきましては、平成26年度と平成27年度に来園者アンケートを実施しております。来園者の属性は、市内のかたが50パーセントから60パーセント、県内に広がると90パーセント以上というような来園傾向がございます。森林公園は、市の北西にございまして、車での来園が多いという結果が出ましたので、森林公園から10キロ圏内の学校や保育園に重点的にPRを図っております。また、少子化の傾向にあり、今後、子どもに頼った集客は難しくなることから、中高齢者の健康増進につながるイベントや施策により、来園者数を増やしていきたいと考えております。

【座長】森林公園の所管は農政課ですが、広い意味での観光地、観光資源として捉えることが可能だろうと思います。回遊性の観点でも、足の問題もありますけれども、何らかを考えることはできないかと考えますと、数値を把握されるのは所管課かと思っておりますけれども、どこか一つの課というより、横のつながりを持って相互に考えていくことが必要だと思っております。他にいかがでしょうか。

【___委員】アダストリア みと アリーナの活用について、収容人数が5,000人ということで、音響設備がよいので、音楽イベントなど他の地域からの集客も見込めるかと、また、売り上げの創出にも貢献できるかと思っております。年間のイベントスケジュールについて、また、音楽イベントでの活用はできるのかについて確認をお願いいたします。

【執行機関】アダストリア みと アリーナは、今年4月にオープンいたしまして、大規模大会を中心に充実したイベントスケジュールとなっております。今年度におきましても、週末はスポーツ大会を中心とした大規模大会が予定されていまして、ほぼ予約が埋まっている状態です。その中で、スポーツイベントだけではなく、音響や映像も優れた設備がありますので、これらを生かしながら、アダストリア みと アリーナを中心として、にぎわいの創出や中心市街地の活性化に更に寄与したいと考えております。

【座長】他にいかがでしょうか。

【___委員】KPIに対する意見になりがちですが、実際は、観光で人を呼ぶ、仕事をつくる、企業を誘致して働く場所をつくる、いいまちにして住んでもらう、これらを前提に、地方創生として魅力あるまちをつくり、たくさんの人に住んでもらうことが一番の狙いですね。

福島県の旅館が、新潟県の旅館の評判を抜いて1位になりました。例えば、ニュースで水戸のホテルの評価が一番高くなったと取り上げられれば泊まりに来てくれます。KPIの数値が低かったとしても、視点や取組が魅力につながるような盛り込みをしていただければ、我々も読んで分かりやすいです。数値だけを見ても、どのように評価したらいいのか、数値が地方創生につながっているのか、なかなか理解するのが難しいというのが正直な思いであります。

例えば、スポーツですと、水戸ホーリーホックや茨城ロボッツが活躍して、更に多くの観客が来てくれるようになったときに、応援して帰ってしまうのではなくて、その機会に、水戸を見てもらえるようになったらよいなという思いであります。

【座長】おっしゃるとおりで、KPIに注目が集まってしまいますので、そもそもの基本目標や施策に照らしてどう向上したのか、逆に評価ができないと私も思います。昨年度の事業の総括をした上で、次の戦略を作る際に、難しいとは思いますがいろいろなやり方を考えていきたいと思えます。

他にいかがでしょうか。

【___委員】七ツ洞公園には現在蛍がいると思うのですが、公園自体の魅力として、蛍をPRしていくのかお聞きしたいです。

また、アダストリア みた アリーナについて、ひたちなか市のロック・イン・ジャパン・フェスティバルのような若者でにぎわうようなまちにしていきたいと思っておりますので、今後そういった活用もしていただけるのかということをお聞きしたいです。

【執行機関】七ツ洞公園における蛍についてですが、地元の国田中学校の部活動として生徒が蛍の育成に取り組んでおりまして、また、国田地区や三の丸地区の地域間交流として蛍の鑑賞会を行っておりますが、市民の皆様への周知はしておりません。広く周知しますと、人が多くなることで地面が荒れてしまうなど、蛍の生育環境が悪くなってしまいますので、蛍を大切に育てていきたいという観点から、周知はしてございません。

【執行機関】アダストリア みた アリーナは、スポーツ以外におきましても、フェスティバルやコンサートイベントができる施設となっておりますので、どんどん受け入れをしていきたいと考えております。もしお考えがありましたら御相談を受けたいと思えますので、よろしくお願いたします。

【座長】それでは残りもありますので、次に進めさせていただきたいと思えます。基本目標Ⅲ「水戸の未来をリードする若い世代の夢や希望を応援する」について事務局から説明願いたします。

(10～13 ページ 基本目標Ⅲの説明)

【座長】基本目標Ⅲについて、御質問、御意見等がありますでしょうか。

【___委員】13 ページの「仕事と子育ての両立に向けた就職応援セミナーの参加者数」について、参加者数は増加しており、水戸市在住者は53人とありますが、当初計画を立てたときの数値目標の設定に難があるのかなと私どもでは思っています。平成30年は24回、3市3町1村、5つの地域を中心に開催しております。実績は市民センターだけの数字になってはいますが、例えば大洗町で開催しますと、水戸市在住のかたでも、そちらに参加するかたもいます。

平成30年の全体の申込者は418人で、出席者が291人、そのうち水戸市内のかたは140人、48パーセントとなっています。私たちは幼児教育課さんと連携させていただき、いろいろ情報もいただいていますし、誘導もしていただいています。国としては成果が上がっているといえますが、この事業だけ見ると成果が下がっているように見えてしまい、その見方は間

違えないでいただきたいなと思います。ハローワーク水戸は水戸市にあるものですから、水戸市さんと連携させていただいて、いろいろなことをさせていただいているので、決してこの数字だけをもって判断をしないでいただきたいなと思います。次の総合戦略でK P Iを設定する場合は、数値の取り方を考えたほうがよいと思いました。

【執行機関】実績値につきましては、御発言のとおり、市民センターで開催している回数になっておりますので、水戸市にお住まいのかたは、実際、市外で開催されているセミナーに参加していただいているという情報は得ているところがございます。次期総合戦略では、そのあたりもしっかり反映させられるような設定をしてみたいと考えております。

【___委員】10 ページに「困難を抱える若者への社会参加の促進」とあります。現在、行き場のない若者がたくさんおまして、その人たちをどのように社会に包含していくのかと思っています。

私が最近知ったことの中で、北海道網走市に東京農業大学の分校があるのですけれども、若者がオホーツクの厳しい自然環境の中で人間性を見つめ直すことが大事だということで、それには農業ということで、東京農業大学が支援しております。現在、人口の約5パーセントは東京農業大学の学生でございます。農業や飲食店、ホテルも営業できないくらいになってまして、彼らをボランティアとして活用したマラソン大会なども実施しまして、非常に重要な一角を占めている事例があります。

また、日本体育大学とも連携しまして、発達障害のある学生を対象とした特別支援学校を作っています。そういったかたが夢や希望を持ってこそ、その大学も夢や希望を持てる、そういうことを我々も感じた次第でございます。以上、感想でございます。

【座 長】子育て支援などありますが、___委員いかがでしょうか。

【___委員】具体的施策（2）「安心して子どもを生み育てることのできる環境の充実」ということで、私としてはここを重点に置きたいなと思っています。市民センター子育て広場開設数の達成度がAということで、確かに数字は増えているのですが、おそらく市民センターごとに開催回数が異なると思います。また、親子がいる割合も地区によって異なると思いますが、そのかたたちをどのようにサポートしていくか、親御さんたちが広場で自由に交流できることはよいと思いますけれども、その場に出てこられない親子がいます。最近、小さいお子さんが亡くなるニュースをあちこちで聞くと、何か支援できなかったのかなと思います。地域の力が必要だと思いますので、市民センターも場所の提供だけではなく、そこに来ている親御さんたちの意見から何かくみ取れるようなサポートをしていただけたらいいなと思いました。

もう一点、具体的施策（3）の学力診断の評価がDということで、水戸スタイルの教育の推進について、水戸は県庁所在地ですので、高校受験に向けても水戸一高が一番ということが一般的な指標になるくらい、水戸の学校は高校受験が大変だという現実があります。そのため、水戸スタイルをもっと自信を持って言えるような取組をこれからも進めていただければという意見であります。

【執行機関】市民センター子育て広場につきましては、市内34か所全ての市民センターにおいて、地域のボランティアのかたがたに見守りをさせていただき、そして、一度訪ねていただいたら

ずっと継続していただきたいという趣旨で、月1回から4回程度、各地区の状況に応じて開催をお願いしているところがございます。毎年度3か所から4か所開設しております。2021年度末には全地区での開催を目指しております。市民センター子育て広場は、見守りということで、身近なまちに、身近なところでということで、場所の設定をしておりますが、その他に拠点として、子育て支援多世代交流を2か所、保育所等で実施しております地域子育て支援事業を実施しながら、市内全域での展開を図っております。____委員のおっしゃるように、そこに来られない、支援が必要な親御さんが実際に増えているということは実感しておりますので、そちらは課題として捉えております。今後、地域のかたのお声がけで少しでも外に出ていただけるようにと思っています。

【執行機関】学力向上に関する御意見ありがとうございました。今後とも、子どもたちの学力向上に向けて、引き続き協力して取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

【座長】他の委員のかたいかがでしょうか。それでは基本目標Ⅳについて、御説明をお願いいたします。

(14～18 ページ 基本目標Ⅳの説明)

【座長】基本目標Ⅳについて、御質問、御意見等がありますでしょうか。

【____委員】14 ページですが、道路に自転車専用の線が引かれているところがございます。車を運転していると、高校生たちが急に飛び出してきて危ないと思うことがあるのではないかと思います。路線バスが走っている細い道にも自転車専用の線が引かれていまして、危ないと感じているのですが、これまで大きな事故があったかどうかということが一つ、水戸のまちなかは道が非常に狭いものでして、歩行者と自転車と車と分けるのは非常に難しいとは思いますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

【執行機関】自転車利用環境の整備につきまして、現在、道路交通法に、自転車は車道の左側を通行することが定められております。水戸市はそれに基づきまして、自転車利用整備計画を警察と連携しながら策定いたしまして、特に高校生の通学で御利用いただいておりますから、道路上にそれが見えるような形で矢印を引いて、通行していただいている状況でございます。ただ、車を運転されるかたにとっては危ないのではないかという感想をお持ちのかたもおられると思います。私どもも警察と連携をいたしまして、月に2回程度、朝と夕方に、自転車を乗っているかたを対象に通行指導を行うなど、安全第一で施策を進めているところがございます。

事故の件数につきましては、路面標示により交通ルールが見える化したことで事故件数が減少しているという傾向がみられます。重大な事故が発生していないと理解しているところがございますけれども、引き続き安全第一で、特に歩行者の安全を確保していくという発想から、自転車の利用環境、そして、公共交通の利用環境の整備を進めていきたいと思っています。

【____委員】私は昨日から水戸に入りまして、大工町周辺から個性的なお店をいろいろ見て歩いたのですが、いい店を見つけて行こうとすると、国道50号の反対側だった場合、ずっ

と迂回して信号を横断するか、あるいは歩道橋を渡らなくてはいけない。回遊性という意味では、回遊しにくいと感じました。バスとタクシーといった営業車両以外を通行止めにして、一般車両を迂回させるというのも一つの案だと思いますが、いかがでしょうか、そのようなことは検討されているのでしょうか。

【執行機関】国道50号は、水戸駅から大工町まで約2キロありますが、その道路空間は、車道が4車線、道路の幅が27メートルから30メートルの空間を有しております。その空間を、今までのように車を中心に使う形でいいのか、今後十分検討する課題だと捉えておまして、水戸市公共交通基本計画の重点施策の中で、どのような形で有効利用するか検討するという計画を持っています。ただ、計画の最終年度の令和5年度までにどのような形で活用策を見出せるかというのは、検討作業が先に進んでいないというところがございます。

もともと幹線道路として設定されていることもございまして、信号の区間が長く、御指摘のとおり、気軽に反対側のお店に行けないという状況が今も続いておりますので、頂戴した御意見を参考にしながら、道路管理者である国土交通省、関係機関の皆様と協議を進めまして、よりよい空間にしていきたいと考えております。

【座長】他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、リーディングプログラムに進みたいと思います。事務局から説明願います。

(19～20 ページ リーディングプログラムの説明)

【座長】ありがとうございます。項目が多岐にわたっておりますが、19ページに掲げたような、若い年齢層の人口を増やすための特出したプログラムとなっておりますが、いかがでしょうか。

【___委員】4年間の推移を見ると、この年齢の人口が5,600人、約10パーセント減っていることはショッキングな数字だと思いました。子どもを産む年代でもありますので、次の世代にも大きく影響すると思っています。そういった中で、主な取組は創業、就業支援が中心のようですけれども、おそらくこの4年間で有効求人倍率がかなり良くなっているのではないかとと思っています。就業の環境は良くなっているにも関わらず、このように減っているのは、それ以外のところに原因があるのではないかと、そのようなところをもう少し掘り下げないと、この流れは止まらないという危機感があります。

【座長】おっしゃるとおり、自然と年齢は上がっていきますので、もともと若い人口が少ないとなかなか増えてこないという要因はあると思いますが、水戸市の場合、この層の社会減はどうなのでしょう、つまり、市外に転出してしまっているのか。全体としての人口が維持されているとすると、逆に言えば40歳以上が増えていっているというようにも読めるのですが。

【執行機関】転出者数については個別のデータを持ち合わせておりませんが、20～39歳の、市全体の人口に対する割合で申しますと、昨年は21.2パーセント、約2割がこの層に当たります。この5年間の中で、社人研の推計が21パーセントでしたので、全体的に減少しているということが構造上の話としてございます。

先ほど座長からもお話がございましたけれども、年齢構成上、30代後半の層は厚くなっておりまして、10代後半は薄いという状況でございますので、そのような傾向があるということが考えられます。

【座長】つまり、20年から40年前に水戸で生まれた子どもの数がもともと減っているとすると、成長してこの年代になったわけですから、当然想定された人数だと。そこについて予想されるわけですが、期待値や目標値を立てているとすると、社会的に転出する人たちを減らしていく、あるいは呼び込むということ以外ないわけですが、実際に水戸でもこの年代層の社会減がそれなりに生じているかは今日のところは分からないのですね。

【執行機関】推計ですが、仮に19歳のかたが20歳に、30歳のかたが40歳に持ち上がった場合の想定としては、転入のほうが若干多くなっているという試算はしております。

【座長】対策もそうですけれども、どのような動きになっているのか、今後、時間を取って検証する必要があるのかなと思います。

他の皆様いかがでしょうか。

【委員】リーディングプログラムは地方創生の柱となる部分ですから、これから進めていただいて、若い世代のニーズ、声をしっかりくみ取っていく努力はすべきだと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

【執行機関】この後の基本方針で説明をいたしますが、今後、市民アンケートを行う予定でございます。総数は4,000人を予定しております、15歳から17歳の高校生世代が1,000人、それ以上のかたを3,000人で考えております。その他、事前のアンケートとしまして、茨城大学、常磐大学、専門学校の大原学園水戸校の学生を対象に、子育て、結婚、仕事について将来の希望などのアンケートを取らせていただいて、これらの要望を踏まえながら計画を策定していきたいと考えております。

【委員】ぜひお願いしたいと思います。やはり将来を担う中心の世代がたですから、そういった世代の思いを反映させたプログラム、施策をつくっていくことが一番必要だと思います。そういったことを踏まえて、いろいろな相乗効果も出てくると思いますので、しっかり反映していくような取組をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【座長】他にございますでしょうか。

【委員】このリーディングプログラムのところでございますが、住宅リフォーム助成件数やまちなか住替え支援事業利用件数が目標に達成していないことを踏まえ、いろいろな助成に対する制限が厳しかったのか、若い世代に水戸に居住してもらうのであれば、そういった世代にターゲットを絞った助成にして、取組の成果がそのまま水戸へ住んでもらえることにつながるようなプログラムに見直すことも必要なのではと思っております。

【委員】水戸市は、人口が減らない計画を実現しようとかかなりがんばったことがわかります。ですが、推計によればかなりのペースで人口が減っていくと出ています。そこに対抗するように、いろいろな対策を講じて人口を維持しようと取り組む意欲は、しっかりがんばってほしいという気持ちで見えております。

しかし、国は、日本全体の人口減少を推計していろいろな施策を講じていると言っていますが、いまだに予定どおりになっているものはないのです。そういったものをしっかり見ながら、

どういった方向に進んでいくのかということとは、こういった資料だけでは表せないことがたくさんあると思っています。そういった、人の心に火のつくような対策をまずやらなくてはいけない、しかも、そういったものはなかなか数値化できないと思います。

近隣市町村のかたと話すことがあります。若いかたが水戸市に引っ越していくと言われてしまいます。水戸市だけが増えれば良いというわけではないと思いながらこの会議に出ていますけれども、皆で力を合わせて全体を増やしていくため、皆でがんばるしかないよねという思いです。数値化が難しいところもありますが、人の心がそういった方向に向かうような施策を講じていただければありがたいと思います。

【執行機関】御意見ありがとうございます。そのような視点を捉えて、次期計画に反映させていきたいと思っておりますので、引き続き応援をお願いしたいと思います。

【座長】他によろしいでしょうか。

それでは、本日いただきました御意見については、事務局と整理をしまして、まち・ひと・しごと創生推進本部に提出をしてみたいと思います。よろしいでしょうか。では、そのようにさせていただきます。

次に、第2次総合戦略策定の基本方針について、事務局から説明願います。

(会議資料2に基づき説明)

【座長】来年度が第2次総合戦略の初年度となるということで、今年度中に策定する予定で動いているということです。御意見、御質問がありますでしょうか。

【___委員】基本方針はすばらしい考え方だと思いますし、4,000人のアンケートもこれだけの規模はなかなかないと思ひまして、若い人からも多く意見を聴取していくことは期待が高いと思います。

一つ、人口ビジョンについてですけれども、私どもの学園は日立市にごさひまして、御存じのように全国でも人口減少率が高いところから来ております。やはり、このあたりは少し厳しく御覧になったほうがいいのではないかと思います。これからの人口がどのようになるか分からない中で、目標をどこまで達成できたかという評価だけをするのではなく、実際にこれだけ人が少なくなってしまったからこうなるのだということを常に考えながら人口ビジョンを策定することが必要ではないかと思ひます。

また、先ほど___委員がおっしゃっていましたが、さまざまな目標や施策一つ一つに心を入れていく、そういった数値目標を御検討いただくことが重要だと思ひます。

私はこちらに来て2年半、行動範囲は水戸駅から大工町あたりまでですけれども、水戸はとてもよいところだと思ひます。ただ、よいところが点と点になっていて、なかなかつながらない、これは県としてもそのようなところがあると思ひます。やはり、拠点に力を入れてアピールすること、外から見て分かりやすくすることも重要だと思ひます。

例えば、外からの取材等もそういったところを頼りにしてるところがござひます。私は2年半前まで東京のテレビ局にいましたので、そちらの事情も少し分かりますけれども、目指すべきは熱海です。熱海は成功例で、廃墟ばかりになってしまっていたのですが、午前中

は昼間のテレビ番組がどんどん取材に来て、今、土日は若い人であふれています。なぜ取材をしてもらえたかといいますと、テレビ局は予算がなくなり、近場に行くからです。幸か不幸か水戸は東京から電車で1時間、車でもすぐに来られます。そういった面で、ポテンシャルはとても高いはずです。要は、東京近郊に攻勢をかけることもありだと思います。代表例は、すぐ近くにある一番人が多いところから人を引っ張ってくるのではないかと思います。それで拠点を設けて、分かりやすいまちづくりには期待するところが大きいです。これから骨子をつくる際に参考にしていただけたらと思います。特にコメントは結構です。

【___委員】私から二つございます。一つは、国の基本的な考え方にもあるように、SDG s 持続可能な開発目標や地域経営の視点で取り組むなどありますが、長い目で見ると、今の戦略的な取組をいつまで続けるのかということです。やり続けることは不可能だと思います。金の切れ目が縁の切れ目のように、行政が今の取組から手を引いたら縮小してしまうと思います。取組そのものが、西洋医学の対処療法的な熱が出たら熱さまシートを貼るのではなくて、東洋医学の漢方のように、本当に具合の悪いところを治す、体質を変えるようなところにかかないと、自立的には回っていかないとと思います。

KPI を見ますと、開催します、何人来ました、こういったことやります、というインプットのなものや、結果的に人口が増えた、歩行者が増えた、新しいお店が増えた、というアウトカム方式の評価が混ざっている形で、本当に効果を図るためにどうなのかという気持ちがあります。

もう一つ、例えば就職説明会を開催し、何人来ました、アウトカムとして何人就職しました、では次はどうするのか。また就職説明会を開催します、何人来ました。もし就職説明会をやめたらどうなるのか、となってしまうわけです。ですから、説明会を開催し、就職しました、その就職したかたが地域に就職することでよい会社になった、よい地域になった、そうしたら説明会を開催しなくても若いかたが就職するというルーティンが変わるような、負のスパイラルからプラスに変わるセオリーオブチェンジですね、インプットではなく、アウトプットではなく、アウトカムではなく、インパクトにつながるような、体質改善につながるような政策のパッケージが必要ではないかと思います。それを図るKPI を達成すると自然と改善されていく、そういった視点を持っていただけるといいなと思います。

もう一つ、那珂市や茨城町、大洗町は競争する相手ではなくて、チームメイトだと思います。誰と戦うのでしょうか、全国で戦うならつくば市も味方ではないか。それを、御近所で小競り合いをして、あちらの人を持ってくる、あちらに行く産業をこちらに持ってくる、そのようなことで労力を使うのではなく、例えば、人口は譲るから産業はくださいとか、総合戦略の中の取組も広域でもっと連携して、広域の中で勝つということができればよいと思っています。

【座 長】他にいかがでしょうか。

【___委員】外部から来た人間として、最後に3点、簡単にお話したいと思います。説明を聞いて思いましたのは、各論だけで偏っていて全体が分かりにくくなっていると思うので、全体を包括するような、水戸市として何を出していくのかというコンセプトがあって、そのコン

セプトに照らし合わせて各論があるべきだろうと思います。次の計画では、全体を包括するコンセプト、副題のようなものがあつたらいいのではないかと思います。

また、水戸市は茨城県の県庁所在地ですので、水戸市がどうかというだけではなく、茨城県の中でどうあるべきかということが非常に重要であつて、中枢の観点のK P Iがあつたらいいのではないかと思います。水戸市を歩いているのはひたちなか市の人もいれば日立市のかたもいらっしゃるわけなので、そういった意味で、周辺市町村との連携を示すような、中枢を示すようなK P Iがあつてもいいのではないかと思います。

3点目は、私どもは今、全国各地いろいろなこのような委員会に出ていますけれども、皆さんおっしゃられるのは、SDG sや、I Tを使ったスマートシティ、あるいはSociety 5.0など、皆さん同じことをおっしゃるのです。そういったことはまずは課題があるはずであつて、私たちのまちにはこの課題があつて、その課題を解決するためにはSociety 5.0が必要だとか、SDG sのこの部分が重点だとか、そういったものがないと言葉遊びになってしまいますので、そのあたりを意識して第2次の計画を策定されてはよいのではないかと感じました。

【座長】他にいかがでしょうか。第1次の総合戦略は、国の枠組みができて、何をやったらいいのだろうというところから、あれもこれもというところからスタートしたところですが、今度は腰も落ち着けてどこをやっていくのかということについて、私たちも第1次でつかめてきたところもありますので、あらためて今日の議論を踏まえて方針を作ってくださいませけれども、いろいろ注文をつけていければと思っております。この件につきましてもさまざまな御意見をいただきましたが、事務局において整理をして次の作業に反映していただきたいと思ひます。

それでは、本日予定しておりました議事は以上で終了となります。

あわせてお願いとなりますけれども、意見聴取のための用紙が付いているかと思ひますが、今日言いきれなかつた御意見、あるいは更にお気づきの点がございましたら、7月19日金曜日までに事務局へ送付をお願いします。

今年度につきましては、残り3回の予定で皆様にお集まりいただくことになるかと思ひますけれども、御協力をお願いいたします。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【執行機関】それでは、以上をもちまして、令和元年度第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。

本日は、長時間にわたりまして、御審議、さまざまな御意見をいただきまして誠にありがとうございました。